

根ヲ加へ、煮テ布ニ包ミテ日々蒸且服スベシ、

〔瘍科秘録^三〕附骨疽^{○中}略

又鶴膝風ト云フモノアリ、膝腫ヲ疼ミ、色ハ變ゼズ、寒熱交作、久シキ時ハ腿ト脚ト肉脱シテ細クナリ、膝ノミ愈大ニナリテ、鶴脚ノ如クナルナリ、腫タル處ヲ押テ見ルニ、軟ニシテ、何カアル様ニ、手對ノアルモノナリ、鍼ヲ兩膝眼ヨリ刺ス時ハ、瘀水ノ出ルモアリ、稀膿ノ出ルモアリ、出テ後ハ腫消スレドモ、又漏ト成テ、朽骨ノ出ルコトアリ、此等ノ證ハ、各名ハ異ナレドモ、皆附骨疽ニ屬ス、流注ハ深ク膿モノ故、治シソコトアル時ハ、附骨疽ニ成ルモノ多シ、鼻淵ヲ長ク患ヒテ、朽骨ノ大サ豆ノ如キモノ、出シコトアリ、何腫瘍ニテモ、久シク愈ザル時ハ、皆附骨疽ニ變ズルナリ、

〔牛山活套^中〕鶴膝風

脚氣ノ變ジテ、必鶴膝風トナル多シ、或ハ傷寒暑濕ノ邪氣脚膝ニ滯リ、或ハ大病ノ後氣血虛弱足膝ノ氣虛弱ナルニ、風濕ノ邪虛ニ乗ジテ此症トナル者多シ、或ハ痛風久ク不愈、足膝力ラナク膝節腫痛シ、胛瘦テ鶴膝トナル類ノ者多シ、或ハ大人小兒共ニ、痲病ノ後ニ此症ヲ發スル者多シ、或ハ小兒癖疳久ク不愈、疲極テ此症トナル者多シ、ヨク々其病因ヲ考テ治ヲ施スベシ、

鶴膝風ト見ヘテ、膝ノ曲腫痛、脛胛瘦テ柴ノ如ナルニ至テハ、先ヅ大防風湯ヲ用テ加減スベシ、方考大防風湯ノ條下ニ、加減委ク註スル也、多ハ効ヲ取ナリ、

〔病名彙解^四〕鶴節^{カクボウ} 病源ニ云、小兒稟生血氣不足シ、即チ肌肉肢體柴ノ如クニ瘦、骨節皆露レテ鶴ノ脚節ノ如クナルト也、

〔神皇正統記^{後醍醐}〕後二條の一の御子邦良の親王居給ふべきかと聞えしに、おぼしめす故ありて、此親王を太子にたて給ふ、彼一の御子おさなくましませば、御子の儀にて傳へさせ給べし、若邦良の親王早世の御事あらば、此御する繼體たるべしとぞあるしをかせまし、ける、彼親王